

# 今日の一問 (やまだ塾)

(2008 年 11 月 3 日掲載)

No.90	国民生活センターの病院危害情報(2003 年度～2007 年度)からみた高齢者の家庭内事故の概要について述べよ。						
解答	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">項目</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="363 701 603 1104">【1】国民生活センターの病院危害情報</td> <td data-bbox="611 701 1364 1104"> <p>・国民生活センターは、全国 20 か所に危害情報を収集する協力病院を設け、商品や設備、サービスでけがをした人の事故情報を収集し、その情報をデータベース化して危害情報システムとして活かしている。</p> <p>・2003 年 5 月に危害情報収集協力病院のデータから「危害情報からみた高齢者の家庭内事故」をまとめて発表され、その後 2003 年度～2007 年度の情報を集計し、高齢者の家庭内事故※の分析が行われた。</p> <p>※家庭内事故:「住宅内(敷地内を含む)」</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1115 603 1957">【2】高齢者の家庭内事故の特徴</td> <td data-bbox="611 1115 1364 1957"> <p>■65 歳以上の高齢者の家庭内事故は 4,138 件である。これは 65 歳以上の事故全体の 63.3%にあたる。さらに、65 歳以上でも 75 歳未満 60.4%、75 歳以上 65.8%と年齢が上がるにつれて割合は高くなる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①20 歳以上の事故の総報告件数 : 21,860 件 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～64 歳 : 69.9% (15,291 件)</li> <li>・65 歳以上(高齢者) : 30.0% (6,569 件)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>②20 歳以上の「家庭内事故」の件数:12,321 件 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～64 歳 : 53.4% (8,163 件)</li> <li>・65 歳以上(高齢者) : 63.3% (4,158 件) &lt;うち 65～74 歳:60.4% (3,518 件), 75 歳以上:65.8%(1,843 件)&gt;</li> </ul> </div> <p>■高齢者の事故は、階段の昇降や床を歩いている時など、ごく普通の動作で起きる転倒・転落によるものが最も多い。頭部や大腿のけが、骨折が多いという傾向が高齢者の事故が重症化・長期化する要因である。また、浴室で熱い湯につかることによるやけどや着衣着火も多く、これらは死亡事故の原因にもなっている。死亡事故の 3/4 はやけどによるもので</p> </td> </tr> </tbody> </table>	項目	ポイント	【1】国民生活センターの病院危害情報	<p>・国民生活センターは、全国 20 か所に危害情報を収集する協力病院を設け、商品や設備、サービスでけがをした人の事故情報を収集し、その情報をデータベース化して危害情報システムとして活かしている。</p> <p>・2003 年 5 月に危害情報収集協力病院のデータから「危害情報からみた高齢者の家庭内事故」をまとめて発表され、その後 2003 年度～2007 年度の情報を集計し、高齢者の家庭内事故※の分析が行われた。</p> <p>※家庭内事故:「住宅内(敷地内を含む)」</p>	【2】高齢者の家庭内事故の特徴	<p>■65 歳以上の高齢者の家庭内事故は 4,138 件である。これは 65 歳以上の事故全体の 63.3%にあたる。さらに、65 歳以上でも 75 歳未満 60.4%、75 歳以上 65.8%と年齢が上がるにつれて割合は高くなる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①20 歳以上の事故の総報告件数 : 21,860 件 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～64 歳 : 69.9% (15,291 件)</li> <li>・65 歳以上(高齢者) : 30.0% (6,569 件)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>②20 歳以上の「家庭内事故」の件数:12,321 件 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～64 歳 : 53.4% (8,163 件)</li> <li>・65 歳以上(高齢者) : 63.3% (4,158 件) &lt;うち 65～74 歳:60.4% (3,518 件), 75 歳以上:65.8%(1,843 件)&gt;</li> </ul> </div> <p>■高齢者の事故は、階段の昇降や床を歩いている時など、ごく普通の動作で起きる転倒・転落によるものが最も多い。頭部や大腿のけが、骨折が多いという傾向が高齢者の事故が重症化・長期化する要因である。また、浴室で熱い湯につかることによるやけどや着衣着火も多く、これらは死亡事故の原因にもなっている。死亡事故の 3/4 はやけどによるもので</p>
項目	ポイント						
【1】国民生活センターの病院危害情報	<p>・国民生活センターは、全国 20 か所に危害情報を収集する協力病院を設け、商品や設備、サービスでけがをした人の事故情報を収集し、その情報をデータベース化して危害情報システムとして活かしている。</p> <p>・2003 年 5 月に危害情報収集協力病院のデータから「危害情報からみた高齢者の家庭内事故」をまとめて発表され、その後 2003 年度～2007 年度の情報を集計し、高齢者の家庭内事故※の分析が行われた。</p> <p>※家庭内事故:「住宅内(敷地内を含む)」</p>						
【2】高齢者の家庭内事故の特徴	<p>■65 歳以上の高齢者の家庭内事故は 4,138 件である。これは 65 歳以上の事故全体の 63.3%にあたる。さらに、65 歳以上でも 75 歳未満 60.4%、75 歳以上 65.8%と年齢が上がるにつれて割合は高くなる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①20 歳以上の事故の総報告件数 : 21,860 件 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～64 歳 : 69.9% (15,291 件)</li> <li>・65 歳以上(高齢者) : 30.0% (6,569 件)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>②20 歳以上の「家庭内事故」の件数:12,321 件 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～64 歳 : 53.4% (8,163 件)</li> <li>・65 歳以上(高齢者) : 63.3% (4,158 件) &lt;うち 65～74 歳:60.4% (3,518 件), 75 歳以上:65.8%(1,843 件)&gt;</li> </ul> </div> <p>■高齢者の事故は、階段の昇降や床を歩いている時など、ごく普通の動作で起きる転倒・転落によるものが最も多い。頭部や大腿のけが、骨折が多いという傾向が高齢者の事故が重症化・長期化する要因である。また、浴室で熱い湯につかることによるやけどや着衣着火も多く、これらは死亡事故の原因にもなっている。死亡事故の 3/4 はやけどによるもので</p>						

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

		あり、死亡原因のトップである。さらには、屋根や脚立等の高所作業による転落事故も目立っている。
	【3】高齢者の家庭内事故の主な事例	①トイレから廊下に出たときにつまずいて転倒。左股関節を骨折して重症 (86歳 女性) ②風呂の湯加減を見に行った際、誤って熱湯の浴槽に転落してやけどし死亡 (85歳 女性)
	【4】高齢者の家庭内事故を防ぐためのアドバイス	・階段や床での転倒・転落事故を防止する ・浴室での溺死、やけどを防止する ・屋根や脚立からの転落事故を防止する ・衣類に着火する事故を防止する ・窒息事故を防止する ・もの選びを工夫する

参考:2008年9月4日国民生活センター発表資料